

鎌倉市教育委員会 令和3年3月定例会会議録

○日時 令和3年(2021年)3月17日(水)
9時30分開会 11時56分閉会

○場所 鎌倉商工会議所 301 会議室

○出席委員 岩岡教育長、齋藤委員、山田委員、朝比奈委員、下平委員

○傍聴者 4人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 鎌倉市学校施設長寿命化計画の策定について

イ 県費負担教職員人事の内申に係る専決処分の報告について

ウ 令和2年度(2020年度)教育センター事業報告について

エ (仮称)鎌倉版 ROCKET 事業の実施について

オ 行事予定

(令和3年(2021年)3月17日～令和3年(2021年)4月30日)

日程2 議案第31号

鎌倉市教育委員会事務分掌規則及び鎌倉市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について

日程3 議案第32号

鎌倉市教育委員会施設管理規則の一部を改正する規則の制定について

日程4 議案第33号

鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程の一部を改正する規程の制定について

日程5 議案第34号

学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について

日程6 議案第34号

令和3年度(2021年度)鎌倉市学校教育指導の重点について

日程7 協議事項

鎌倉市生涯学習プランの改訂について

岩岡教育長

開催に先立って、現在新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、傍聴については極力ご遠慮をいただいていることから、3月定例会についても、会議の音声データを希望者に対して貸し出しを行うこととしており、ご承知おき願いたい。それでは定足数に達したので、委員会は成立した。これより3月定例会を開会する。本日は、山田委員が任期満了に伴う最後の定例会ということで、盛り沢山ではあるが、様々なご意見を聞かせていただければと思う。最後にご挨拶をお願いします。本日の会議録署名委員については、齋藤委員をお願いします。本日の議事日程はお手元に配付した通り。日程に従い議事を進める。

なお、日程の1報告事項のイ「県費負担教職委員人事の内申に係る専決処分の報告について」は人事案件のため、地方教育行政の組織および運営に関する法律第14条第7項の規定により非公開とし、日程の7の「審査請求に係る裁決について」は個人情報保護の観点から非公開にしたいと思うが、異議はないか。

(異議なし)

岩岡教育長

異議なしと認め、日程の1報告事項のイ及び日程の7については、非公開とする。
では、日程に従い、議事を進める。

1 報告事項

(1) 教育長報告

岩岡教育長

それでは日程の1報告事項に入る。まず始めに教育長報告をする。私からは3点ご報告する。1点目は、3月11日に中学校の卒業式があった。3年間頑張ってくれた子どもたち、教師の皆さん、そして手伝ってくれた教育委員会事務局の皆さんに感謝を申し上げたいと思う。保護者・各家庭1名ということで、来賓の出席もなかったのが、教育委員の皆さん、私も出席できずに、卒業式の様子を伺い知ることとはできないのだが、3年生の皆さん、修学旅行を中止した学校も多くあり、各種行事の縮小や部活動の制限など、子どもたちにとっては散々な1年だったと思われる方もいるのではないかと心を痛めているところである。今後、教科書に載っていくような社会変化を経験したこととか、その中で工夫しながら学校生活を送ったことというのは、今後の人生の糧になると信じているし、来年の感染状況はまだ不透明であるが、変異株による第4波の到来というのも想定しておかないといけないと思う。今年度の反

省も生かして、来年度感染症対策を講じつつも児童・生徒の様々な体験の機会を確保していくということを教育委員会としても引き続き考えていければと思っている。

2点目であるが、GIGA スクール構想の進捗についてということで、現在各種端末もそうであるが、Wi-Fi の整備、あとは大型ディスプレイの配備ということで、着々と納品が進んでいるところである。早速納品が済んだ学校では大型ディスプレイを活用して授業展開をしているということで、第一小学校の先生が是非見に来てほしいということであったので、第一小学校に見に行き、新しく入った大型ディスプレイと、あと AI ドリルの Qubena を使った授業を見に行ったところである。まずその新しく入った大型ディスプレイであるが、単なるモニターの域に留まるものでは全くなくて、未来タッチという、いわゆる電子黒板で、モニターを大きくしたものというよりも、iPad が 65 インチになったものとイメージした方がおそらく分かり易いと思う。先生が例えばあらかじめ板書を作って、それを提示しておくことで、授業の最初の板書の時間を節約できるということも当然あるが、作った板書を保存しておいて、また次の授業に呼び出すことができ、大きく時間短縮になったり、インターネットにも繋がるので、NHK for School をみんなで見たり、あとは Zoom を使って色々な所と繋がって授業をしたりとか、インターネットで調べるのは当たり前だが、非常に多くの学びが広がっていく。あと子どもたちの画面とか、先生の持っているタブレットの画面を大きく映し出すことが出来るので、タブレット単品だと子どもたちがタブレットと向き合ってしまうところを、みんなで共有することによって、学びの共有化・共同化を図ることが出来るということで、非常に先生方も早速活用して下さっていて、大きく教室環境が変わっていくことを実感した。

次に、Qubena という AI ドリルを使った授業であるが、4年生の概数の授業で使っていた。概数というのは、例えば 218,505 を上から二桁までの概数で表そうとか、21 万だとか 22 万とか、あと四捨五入の概念だとか、そういったことに使っていたわけなのだが、概念の理解はもうあらかじめ先生が授業していて、その後の定着の場面で概数の単元の AI ドリルを使った授業をしていた。約 20 分間各々のペースで AI ドリルに取り組むということをやっていたのだが、まず先生、子どもからも直接色々な意見を聞いたのだが、子どもたちは非常に意欲的に取り組むということだった。やはりその進度が自分に適切に合ったものになっているので、例えば小テストでプリントが配られた時には分からないと普段だったら思う子どもでも、自分に合った問題に取り組むことが出来るし、もうその範囲は完全に理解していて、普段の小テストだったらつまらないと思っている子どもが非常に難しい問題とか、チャレンジするような問題に取り組むということが出来るということで、個別最適化と言うが、やはり分かっている子どもから課題のある子どもまで、適切な進度で取り組むことが出来るというのは非常に素晴らしいと思った。あと子どもから、間違った時にその場で確認ができるというのが素晴らしいという声が上がっていた。普通のドリルとかプリントでは間違っても先に進まないといけない、間違っているかどうか分からないという、どんどん先に進んで、分からないまま先に進まざるを得ず、後で 40 点とか 50 点とか返ってくる訳であるが、ここを復習するのはなかなか授業の中では難しいということになる。AI ドリルを使っていく中で、自分が今間違っ、何故間違ったのかがその場でフィードバックを受けられるのは非常に大きなところであると思ったし、先生もつまずいている子どもに指導が集中できるということがすごくある。やはり分かっている子どもや、なかなか進められない子どもに張り付けていても、授業全体がしっかり進んでいくところが素晴らしい点だと思った。もちろん課題もあり、例えば 20 分間ドリルに取り組むというのはやはりちょっと疲れる。肩が凝り、目が疲れる。そういったこともあるので、

そうしたことにはしっかりと対応していかないといけないと改めて思ったのだが、あとは文章理解が一人で出来ない子どもというのはやはりクラスの中にいる。字をしっかりと読んでそれを理解して問題に取り組むというのがまだ難しい子どもにとっては、自立的に進めていくというのは難しいと思う。投げだしてしまうこともあるので、文章理解が自分でなかなか難しい子どもに、どのように対応していくのかということも今後工夫の余地があると感じられた。教師からはこうして1人でスラスラと進められる子どもがたくさんいる中で、教師の役割というのを改めて考えると、塾でもAIドリルを入れているところもあるから、学校はどういう役割を担うのだろうか、学校でしか学べない学びとはなんなのだろうか。それこそ体験的な学び、1メートルがどれぐらいかとか、あとは共同的な学び、そういったものをしっかりと学校で仕掛けていかないと、学校の存在意義というのが問われるという危機感を感じられた。これは非常によい危機感だと思っていて、意識を変えろというのは難しいが、環境を変えていくことで自然と意識も変わっていくのかということを感じたところである。

最後はスクールコラボファンドであるが、ふるさと納税の仕組みを活用してわくわくする教育をということで、スクールコラボファンドのクラウドファンディングをしているところだが、3月17日の締切の予定だったのだが、3月17日以降に寄付をしたいという申し出をいくつかいただいて、幅広くその協力の意志を取り込みたいという観点から、期限を30日間延長することとしたので、引き続き支援をよろしくお願ひしたいと思う。

下平委員

今のスクールコラボファンドなのだが、教育長はもちろん、それから市長もSNS等を使って宣伝して下さっているので、皆で力を合わせて多くの人に呼び掛けていきたいと思う。鎌倉が最初という訳ではないと思うが、全国にそういう働きかけが広がって、それぞれの地域の一人ひとりの人間が子どもたちを育てていく、支えていくという考え方が広がっていくと素晴らしいことだと思う。それともう一つ、GIGAスクール構想のお話が出たが、2月12日の小学校でちょうどグーグルフォームを使ってのアンケート作成を先生方が学ぶ時間を拝見させていただいた。教育センターの皆さんが本当に面白おかしく分かりやすく指導しているのが本当によく分かったし、先生方も若い方、生まれた時からこういうタブレットに慣れている。ところが私たち世代に近くなってくるとやはりまだまだ抵抗があるというか、難しく感じてしまうところがあると思う。今後もっと有効に活用していくために1日も早く先生方が習得していくことが重要だと思うし、さらに電子黒板の件も含めて、より教育に有効に活用していく方法を大人たちがしっかりと活用できるように習得していかなければならないと思うのが一つある。それと今教育長からも学校とはどういう場だろうかという命題が出たが、ある側面基本的な学習を学ぶという柱と、やはりもう一つ社会的な動物として社会性を学ぶという場でもあるのではないのかと感じている。なかなか家庭の中でそういうスキルを学びにくくなっている世の中でもあるので、やはり自分とは違う他人というものを、自分の特質も受け入れるのと同時に、他人の特質も理解し受け入れるということと、自分とは違う他と、理解と信頼を自らの力で育む、それがソーシャルスキルだと常々思っている。その為に私たちは言葉という素晴らしいものを持っているわけで、画面を見る時間が長くなるのも一つだが、やはり自分は違う他人にそれを伝えるとか、他人の想いを言葉できちんと理解し合う、認め合うとか、便利だからといってこれだけに任せるのではなく、もう片方でそういう指導というのか、しっかりと具体的にスキルを育てるような指導というののもやはり小中学校では欠かせないと感じるので、そこ

は両方しっかりと私たちが考えて支えていかなければいけないのではないかと感じた次第である。

山田委員

私も2月12日に深沢中学校のGIGAスクールの研修に行ってきた、こちらはグーグルドライブでのファイルを管理するものだったが、職員室で各学年ごとに集まった先生方がチーム形式で研修を受けていて、教育センターの方の指導がとてもきめ細やかで丁寧に説明してくれて、恵まれているなど感じた。ここまで教えてくれたら本当に理解出来るだろうと思うような説明であった。私は基本的に一緒に横に座らせていただいて拝見したのだが、皆さん本当に意外と出来ていらっしゃるというか、得意な方は本当にその方が講師になれるぐらいの方も各テーブルに何人かいらっしゃったし、そういった方が少し年配の方を補佐したりということが自然に行われていたので、おそらくこれは慣れで、スタートしてからデフォルトになるのは時間の問題だろうと思わず少し安心した。

それともう一つ、2月17日に市町村の教育委員会の研修会が行われて、そちらに私は参加してきた。参加したとしても今回はオンライン、今年初めてオンラインで開催されたのだが、去年もあったか忘れたのだが、いずれにしてもオンラインの参加というのは初めてで、今まではその討議の時間なども少し対面であるがゆえにダラダラしてしまって、あまり実のある話し合いが出来なかったという印象が何年か参加してきてあったのだが、今回はオンラインだったことで、逆に凄くよかったということに私自身も参加して驚いた。やはり画面越しに顔を直接見ている訳なので気が抜けないということと、制限時間があるのでそれに対して自分の時間管理をしながら話すスキルが問われるとともに、市町村の代表の方、私のところは教育長も何人かいらっしゃったので、非常に深い話も出ていたし、とにかくオンラインの取組というのはすごくよいと感じた。この研修に関して言えば、これはオンラインでやる意味が非常にあったと感じている。2点ご紹介したいのは、データがその後すぐに消えてしまったので、私も視聴者の名前までは聞き取れなかったのだが、面白かったのは広島の方で28歳までを見据えたキャリアパスポートというのを活用していた。やはり教育と言うのは、この後紹介する方もそうなのだが、義務教育だけではなく、成人として自分の足で自立していくということまで見届けなければならない、見届けたいという思いがおそらく詰まっていると思うのだが、系統的なキャリア教育を推進して社会的、職業的自立の基盤となる能力、生活態度を一貫して見守るとするのは非常によいと感じた。あとは兵庫の方では、脳科学を教育に取り入れることで、学力不安、不登校とか、小1プロブレムとか、特別支援といった課題解決を図っているという取組であった。これも非常に面白いと思い、教育専門の方は皆さんご存知の話だと思うのだが、10歳の壁というのがあって、人は10歳前後で脳が大きな成長をするということがあって、そこに着目して小学校5年生、10歳の段階で何をすべきかを科学的・医学的に検証して、そこに必要なプログラムを開発して、市の中の10歳は必ずみんなそれを受けるといようなことをしていて、非常に課題解決に繋がっているという取組であった。鎌倉からは私はスクールラボファンドの取組だとか、スクールプランニングの話をして、それからGIGAスクールの進捗などについても担当職員が非常に良い資料を作ってくださって、皆さん興味深く聞いていただいて、たくさん質問も受けたのだが、やはり全国見渡すと色々な取組があり、まだまだ鎌倉はそういったサイエンスとかアートとかを取り入れたような教育は、常々私も少し発言をさせていただいたつもりであったが、まだ開拓の余地があると感じたので、この先皆さんに是非協力いただいて進んでいただきたいと思う。

齋藤委員

GIGA スクールの研修会に参加して来た話だが、内容については皆さんが言っていたとおりなのだが、私がよいものだなと思ったのは、研修を受けている時に先生方がとても集中していたということや、分かっている人はいるのだろうけどもより深めようという姿勢が見られたということ、それから学校は忙しいが、その時間に集中して学んでいこうという素晴らしい姿勢を感じられたことである。研修の時間が終わって、解散となった時にそれで終わりかと思えば、先生方が講師のところに近寄っていったものを学ぼうとしていたというその姿に、私はやはり鎌倉の先生方は頑張っている、また委員会の講師の方もこんなに努力して皆さんを引っ張っていかうとしてくれているという熱意を感じて嬉しかった。また、別件だが、私は先日3月2日に青少年問題連絡協議会に出てきたのだが、その時にやはり我々が考えていかなければいけないことは、このクラスに生活している中高生から30歳までの青少年・青年期を対象として、幅を広げて面倒を見ていく、考えていかなければいけないのだということ非常に大事に捉えていた。それからもう一つは、地域の担い手となる社会参画の推進をしようではないかということだと思う。子どもたち・青少年の居場所も作りながら、そういうことも進めていこうと、育成プランとして話し合いをしてきた。そこで初めてのオンライン会議で、私も戸惑いながらも、色々ご指導いただきながらやっていたのだが、参加することが出来た。それで自分なりにできたという満足感と、あの時に少し落ち着けばみたいなのがあったのだが、こうやって先生方も学んでいく、生徒も喜びを感じるのだと感じた。そんな喜びもあったのだが、その中で私はやはりオンラインのよさと実物のこういった会議の差を感じた。私としてはオンラインで集中してといった話があったが、納得しながらメモしつつ参加して集中できたのだが、生の顔が見たいなど。そうするともっとはっきりするのではないかということを感じた。もう一つは子どもたちと先生たち、色々な子どもがいる訳だが、オンラインを通じてお互いの気持ちを感じ合ったり、声をかけあったりすることが出来るこのオンラインの素晴らしさというのを改めて痛感したところである。

(2) 部長報告

教育部長

それでは私の方から現在開会中の市議会2月定例会の概要について、教育部関係の概要について報告をさせていただきます。2月10日から3月19日までの38日間で2月の定例会が開催されていて、一般質問無所属議員さん5人中4人が教育部関連のご質問をいただいたところである。議員としては長嶋議員、竹田議員、くりはら議員、千議員から質問をいただいた。2月12日に議会の本会議があり、コロナ関連の補正予算を上げさせていただいて、これについては多数の賛成をいただいたところである。3点目として令和3年度の予算に関連する代表質問、会派の質問もいただいた。7会派あり、日本共産党からは少人数学級、学校給食について、鎌倉みらいからはICT、教育支援、鎌倉版コミュニティスクールについて、公明党からは学校現場における子どもの心のケア、GIGAスクール構想、コロナ禍を踏まえた学校施設整備、少人数学級、特別支援教育という内容で質問をいただいている。神奈川ネットワーク運動・鎌倉においてはGIGAスクール構想、鎌倉版コミュニティスクール、鎌倉版ROCKETなどについてである。自由民主党鎌倉市議会議員団についてはAIドリル、教師の人材育成、教職員の働き方改革な

ど。それと鎌倉のビジョンを考える会については市民地域として生涯学習センターの通信環境と学校教育に関しては、GIGA スクール構想、鎌倉版 ROCKET、学校行事、課題解決型学習等について、それと最後の会派だが、鎌倉夢プロジェクトの会からは総合計画に絡んで学校整備計画、福祉manifestoに関連した特別支援学級の質問をいただき、教育関係については教育長の方から答弁を申し上げたところである。それを受けて、教育こどもみらい常任委員会が2月24日に開催され、議案1件、補正予算1件、報告事項3件と令和3年度の新年度予算の審議等をいただいたところである。トイレの改修については入札で減額になったため、業務委託契約の変更を議案として提案させていただいて、それについて総員の賛成をいただいたところである。それと補正予算については、修学旅行のキャンセル料について市で負担をするという補正予算について、教育こどもみらい常任委員会の予備審査をいただいて、総務常任委員会への送付意見なしということである。あとは鎌倉市生涯学習プランの改定、給食食材の放射性物質の測定の見直し、学校職場環境改善プランの見直しについては報告をし、了承いただいた。令和3年度の一般会計予算の事前予備審査については、予算等審査特別委員会への送付意見なしで、その後3月1日に総務常任委員会、補正予算については所管が総務常任委員会になるので、そちらで修学旅行のキャンセル料について審議いただき、総員の賛成をいただいたところである。これらを受けて3月5日に開催された議会本会議において、トイレの改修の業務委託契約の変更、補正予算、修学旅行のキャンセル料について議会総員の賛成をいただいたところである。令和3年度の予算に係る審議だが、予算等審査特別委員会で3月8日から15日までの日程で審議をして、教育部関連については3月9日に予算の審議をしていただいたところである。特段のご意見等もあったが、3月19日最終の本会議において予算等審査特別委員会の委員長からの報告を受けて採決をいただくというような流れになっている。教育部関連は以上である。

文化財部長兼歴史まちづくり推進担当部長

私からは文化財部ならびに歴史まちづくり推進担当関連の2月定例会について報告をする。一般質問については5人中くりはら議員、松中議員の2名の議員の方からご質問をいただいた。くりはら議員からは基本的に無形民族文化財にかかる伝承であるとか、そういったところがどうなっているかという観点で質問を頂戴した。松中議員からは「鎌倉の歴史大河ドラマ」というテーマなのだが、教育長に北鎌倉駅周辺、特に円覚寺境内手前のところ、そういったところの景観についてどうかのご質問をいただいた。さらには庁舎内で文化財課が出土品の展示を行っているが、1階ロビーに展示した方が効果的なのではというご提案をいただき、2日後ぐらいに1階ロビーに展示を移したというようなこともあった。さらに大町釈迦堂口遺跡の整備を早くした方がいい。それから市内のやぐらで見られるもの、あるいは非公開のものもいつか公開して欲しいという観点の質問もいただいたところである。続いて代表質問だが、7会派中4会派から質問をいただき、鎌倉みらいからは史跡環境整備事業ということで、大町釈迦堂口が2カ年事業の継続事業ということで今般、予算計上をしているが、しっかりと4年度中に仕上げたいという観点での質問があった。それから大河ドラマ関連で北条義時公のお寺の整備とどのようなことをやるのかというご質問を頂戴した。さらに鎌倉市にふさわしい博物館事業「エコミュージアム」の基本計画、実施計画の進捗状況はどうなのかという観点でのご質問があった。公明党からは野村総合研究所跡地においてある出土品をどうするのかというご質問、自民党からは同じく野村総合研究所跡地の出土品をどうするのか。これも同じなのだが、大河ドラマに対して文化財部ではどのような

対応をするのかというご質問をいただいた。鎌倉のビジョンを考える会も同様に大河ドラマに関連する施設等の具体的な整備についてということであった。教育長から大河ドラマ関連ではARを活用した整備であるとか、釈迦堂口についてはしっかりと令和3年度、4年度で工事をするということ。それから野村総合研究所跡地については、しっかりと場所を決めて出すというようなことでお答えをさせていただいたところである。続いて令和3年度一般会計予算関係の審査という事で、3月1日開催の総務常任委員会において歴史まちづくり推進担所管部分の審査、特に意見はないとのことで審査を受けた。そして3月5日の教育こどもみらい常任委員会において2月の本委員会定例会で審査いただいた新規の鎌倉市指定文化財の指定について報告し、了承をいただいた。令和3年度予算については送付意見なしという事で審査を受けたところである。引き続いて3月9日開催の一般会計予算等審査特別委員会において、歴史まちづくり推進担当、それから文化財の所管部分について審査を受け、ご意見として高橋委員から埋蔵文化財出土品の整備について、促進すべしというような観点でのご意見をいただいた。文化財部、歴史まちづくり推進担当関係についてご報告は以上である。

(3) 課長等報告

ア 鎌倉市学校施設長寿命化計画の策定について

岩岡教育長

次に課長等報告に移る。報告事項のア「鎌倉市学校施設長寿命化計画の策定について」報告をお願いする。

教育部次長兼教育総務課担当課長

報告事項ア「鎌倉市学校施設長寿命化計画の策定について」を説明をする。本日についてはお手元の資料に差し替えを配付させていただいている。文書作成したソフトと印刷に使用したソフトが異なっており、表や改行位置、図の説明位置が適切に表記されておらず、誤字等もあり、当日配布とさせていただいた。修正した部分については網掛け表示をさせていただいている。それでは説明をする。少し長くなるがあらかじめご了承ください。

まず本計画の位置付けについて説明する。平成25年11月にインフラ長寿命化基本計画が策定され、政府全体として国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性が打ち出された。各地方公共団体においても「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取組の方向性を明らかにする計画として「インフラ長寿命化計画」を策定するとともに、個別施設ごとの具体の対応方針を定める計画として個別施設毎の長寿命化計画を策定することが求められることになった。これに基づき、本市では公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進する為の鎌倉市公共施設等総合管理計画を平成28年3月に策定し、教育委員会では学校施設の個別施設計画の策定に向けた取り組みを進めてきた。今回「鎌倉市学校施設長寿命化計画（案）」を取りまとめたことから策定にあたり、当委員会において報告するものである。

お手元の資料鎌倉市学校施設長寿命化計画（案）の1ページを参照願いたい。「1背景・目的等」で

は本計画の前提として、学校施設の置かれている現状や実態を明示するとともに、目的・計画期間等を記載した。市の基本計画や実施計画を策定する過程において、関係課との協議・調整を行うための基礎資料として目的では教育委員会における学校施設の整備に係わる基本方針として、市の基本計画や実施計画を策定する過程において、関係課との協議・調整を行うための基礎資料としての活用や、令和5年度を目途に策定作業を進めている「学校整備計画」の基礎データとすることを記載した。

2ページから4ページを参照願いたい。「2 学校施設の目指すべき姿」では、安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性及び地域の拠点化の観点から、学校施設として目指すべき姿を記載した。5ページから10ページを参照願いたい。「3 学校施設の実態」では、対象施設の一覧や児童生徒数及び学級数の変化、学校の配置状況を記載した。11ページでは、学校施設に係る直近5年分のコスト状況を記載した。また、本市の公共建築物の面積に占める学校の面積を記載した。12ページでは、学校施設の保有状況として、築30年以上経過した建物が14.4万㎡(86%)を占めており、そのうち築40年以上経過した建物は7.4万㎡(44%)。築50年以上経過した建物は2.2万㎡(13%)であり老朽化が進んでいることを記載した。13ページを参照願いたい。建築後40年間で改築する従来型の修繕・改修を続けた場合の今後40年間のコストを記載した。今後40年間のコストの総額は906億円、年22.6億円で、直近5年間のコスト年19.3億円を上回る。14ページから18ページを参照願いたい。「(2) 学校施設の老朽化状況の実態」では、平成29年度から30年度にかけて第二中学校及び大船中学校を除く23校で実施した構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の老朽化状況等の調査結果・評価を記載した。19ページを参照願いたい。20ページから22ページの長寿命化型における改修時期一覧表等に基づき、改築中心の従来型から長寿命化による建物の目標使用年数を80年とする長寿命化型に移行した場合の今後40年間のコストを記載した。今後40年間のコストは891億円、年22.0億円となり、先程説明した従来型の場合の906億円、年22.6億円より総額で15億円、年0.6億円の約1.6%縮減となる。しかし、計画期間の前半は長寿命化改修が、後半は改築が集中することもあり、40年間の平均コストは直近5年間のコスト年19.3億円の約1.2倍を要するため、単に長寿命化型に移行するだけではコストの低減化は困難であることを記載した。23ページから24ページを参照願いたい。「4 学校施設整備の基本的な方針」では、現在策定中の鎌倉市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的考え方に基づき、学区や規模、配置の適正化を進めることや、公共施設再編計画に基づき、小学校の改築の際は子どもの家・子ども会館の複合化を前提とした改築等の基本的な方針を示した。方針では長寿命化によるメリットは大きいと考えられることから、長寿命化改修が可能な学校施設は長寿命化することを前提とするが、本市の学校施設は既に建築後50年を経過している建物もあることから、長寿命化改修を選択するのか、経済性や教育機能上の観点なども踏まえ、改築を選択するのかについては学校整備計画策定過程において総合的に判断していくことを記載した。25ページを参照願いたい。「5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等」では、長寿命化改修の実施に当たって配慮する項目や、学校整備計画の策定過程において、改築や長寿命化改修における学校施設の標準仕様も検討することを記載した。また、26ページから27ページでは、維持管理のために実施する点検等を記載した。28ページから29ページを参照願いたい。「6 学校施設整備の実実施計画」では、目標使用年数(80年)を前提とし、大規模改造、長寿命化改修、改築の周期に加え、各種点検等の結果も踏まえた優先順位付けを行い、計画的な改修等に努めることや、学校施設の改築については、築年数の古い順に行う事を基本とするが、単に最古の校舎の築年数を捉えるのではなく、施設全体を総合的に判断することを記載した。また、第4期基本計画実施計画重

点事業計画表を記載した。30 ページでは、コストの削減について記載した。31 ページを参照願いたい。「7 整備計画の継続的運用方針」では、本計画を適切に実施していくために、システムを活用していくことや、推進体制等を整備していく事を記載した。以上が、鎌倉市学校施設長寿命化計画の概要となる。最後に今後の事務手続きだが、教育委員会内の決裁をもって確定とさせていただくのでご了承願いたい。また、事務手続きにおいて誤字脱字等を修正させていただくこともあるので合わせてご了承願いたい。なお、本計画（案）については教育委員の皆さんに事前にご意見等をご照会したところ、特にご意見等はなかった。

(質問・意見)

下平委員

総合計画審議会委員として、第4期の基本計画の策定について関わらせていただいた。その計画も、後で議案の8に出てくる鎌倉市生涯学習プランに関しても、その時こういう資料等の今後の見通しなども背景にして話し合いをした。ただ、その話し合いが終了して計画を策定した後に、コロナの時代ということになったので、第4期の基本計画を立てるときには、鎌倉がSDGs 未来都市に選定されたということで、それに基づいた計画を立てた訳であるが、また大きく社会と、未来の見通しが変わって来ているというのが実状ではないかと思う。鎌倉市生涯学習プランのところでもお話ししたいと思うが、やはりこういう施設がおそらく今までと大きく見方を変えていく必要が出て来ると思う。ウィズコロナの時代と言われるが、コロナだけに限らず、人との集合の仕方というのが、やはり未来は大きく変わっていくと思うし、例えば、目指すべき姿の中に防災対策を担うのかどうか分からないが、やはり換気とか空調とかは今後より重要なポイントになるであろうし、それから衛生的な配慮みたいなものも重要になるし、さらにリモート化は間違いなく進んでいくので、配信環境の十分な整備というのが求められていくだろうし、そのあたりの視点というのも少し加えていく必要があると思う。第4期基本計画策定の時も厳しい現状を見て、なかなか改修を重ねていくというのは非常に大変なことだという予感的なものも含めてそういう意見は繰り返し出てきたわけであるが、やはり生涯学習の施設だけに限らず、色々な施設を複合的に兼ね揃えた形での、小学校の建物だけをどうするかという見方ではなく、もう少し俯瞰視した見方をしていかなければ本当に未来は追いつかなくなるのではないかと思っている。その点は皆さんも十分考えてくださっているのはわかるのだが、ウィズコロナも含めた視点で、大きな視野で今後も話し合いを進めていただきたいと心から思っている。

岩岡教育長

非常に適切な視点をいただいていると思っており、今の「長寿命化計画」を見てお分かりになるように、改築をする場合であっても、全て現行の施設を長寿命化する計画であっても、財政的には持続可能ではないということで、根本的に考えていかなければならない。学校の数が適切なのかとどうかというところからも考えていかなければならないということだと思つるとともに、その際に新しい学校の姿、どのような教育を学校教育を通じて実現していくのかということをしかりと見定めて、施設を作っていく必要があると思うし、その時の一つのキーワードとして「地域の多様な力を学校に生かす」という観点からも考えると、様々な教育施設を学校という敷地で複合化していくというのは非常に重要なことだ

と思っており、それは拠点校の考え方としてこれまで教育委員会の中でも議論をしてきているところだ
と思うので、鎌倉市の公共施設の半分以上は学校だという事もあるし、学校という枠にとどまらず、市
長部局ともしっかり連携して、鎌倉市全体の公共施設の整備の在り方というのをしっかり議論をして、
令和5年度までに学校整備計画、施設整備計画を作る予定なので、その際には皆さんにもまた議論いた
だきたいと思っている。

山田委員

この計画が決定されるとこのプランで進んでいくことだと思うのだが、今2人がおっしゃった視点に
賛同すると、子ども数の減少がどうなっていくか、それを長期的に推測した時に、今も教育長がおっ
しゃったような学校の数が適正かということもあり、もちろん全ての学校に残って欲しい気持ちもある
し、だけれども子どもたちにとっては本当に適切な団体行動が出来る数というのはおそらくあってそこ
とのせめぎ合いもあるだろうし、そういうことを考えた時に、この改修時期は、総合的に考えた計画で
あるのか。つまりこれだと全部の学校が今従来通り改修されるというように見えるが、おそらくこれは
もう少し時期を再考するとか、そういったプロセスがあるのか。

岩岡教育長

こちらは竣工から80年間の間に20年で大規模改造、40年で長寿命化改修、60年大規模改造、80年
改築というのは自動的に当てはめるところなるといって示しただけなので、これ自体が計画になる訳
ではなくて、それは令和5年度まで個別の学校名を含めた学校施設整備計画の議論の中で決めていくこ
とになる。これはあくまで80年間のタイムラインを貼った時にどうなるのか、イメージ的に示したも
のになる。

教育部次長兼教育総務課担当課長

この計画については教育長からお話があったとおり、耐用年数を考えた上ではめ込んだ計画である。
山田委員からお話があったとおり、児童生徒数の数だとか、そういった状況もあるし、適正規模・適正
配置というのでも検討している。令和5年までに策定を目標にしている学校整備計画の中で、今後どの
学校をどういう形でどうしていくかというのを決めていくことになると思うのだが、本計画はそれを決
めるにあたっての基礎的なデータとするような形で活用していこうと考えている。

齋藤委員

とても大切なことだなと感じた。資料をいただいた時から、考えていかなければいけないのだと感じ
ている。ただ地域の学校、これから鎌倉を背負っていく、担っていく子どもたちを育てていくというこ
とを考えていくと、私自身は地域の学校、それから地域で育てていくということに重点をおいて欲しい
ということを常々思っている。でもこのたくさんの老朽化とか、お金のこととか考えた時にはやはりこ
れから後々よく話し合っ決めていく、それには乗らざるを得ないと思っている。少人数学級でと言っ
ている訳で、それからすると少人数の中でじっくり一人ひとりの子どもにあった教育をという昔の感じ
ではないが、そこを大事にしていきたいというのが私の主軸なのである。考えていくとやはり計画をよく
考えていかないといけないと思、そして財政も考えていかなければいけない、非常に辛いところと

思いながら、この資料を読ませていただいた。

岩岡教育長

学級の編制基準があるので、学級数が少なければ少ないほどボーダーになった時に小人数が生まれる可能性は高くなる。例えば1学年に45人いた時に、40人学級であればそれを分けないといけないので、20人学級が生まれてくる。小規模校では実態的に少人数学級が出来ているというところもあるので、非常に小規模でもよい学校もたくさんあるという状況も踏まえて、単純にその規模の大きさと小ささだけではなくて、鎌倉の中で地域の方も含めたしっかりとした教育が出来る為にはどうしたらいいのかということを議論していかなければいけない視点は、大事にしていきたいと思う。

(報告事項アは承認された)

ウ 令和2年度(2020年度)教育センター事業報告

岩岡教育長

次に報告事項のウ「令和2年度(2020年度)教育センター事業報告について」報告をお願いします。

教育部次長

報告事項ウ「令和2年度(2020年度)教育センター事業報告について」報告する。議案集は2ページ別冊になっている「令和2年度事業報告」の6ページを参照願いたい。令和2年度の研究会の活動内容を記載した。各研究員は鎌倉市の教育のための熱心な研究推進に取り組んだ。(4)幼児教育研究会が今年度、研究のまとめになっている。研究会の取組をまとめた報告書はまとまり次第、各学校・市内各園に配布し、活用を校長会等などでも願っているところである。

7～9ページを参照願いたい。実践的な指導力向上のための各種研修会の報告を記載した。今年度はコロナ禍の影響で、集合研修のほとんどが中止になったが、今年度からスタートした各学校に指導主事を派遣する形で行うGIGAスクール校内研修会では、全ての学校で実施となった。

11ページを参照願いたい。イ基本研修の初任者研修及び1年経験者研修について報告させていただく。本年度の初任者研修対象者は8名であった。初任者研修は県立総合教育センターが主催する研修と、各学校における校内研修、鎌倉市教育センターが行う研修がある。鎌倉市教育センターが行う研修は年間4回あり、そのうち2日間は夏季休業中に行う。今年度は宿泊研修を見送り、教育支援教室ひだまりの1階会議室で行った。2月2日火曜日には、最後の初任者研修会を実施した。緊急事態宣言中ということで、オンライン開催とした。教育長講話のあと、「SDGsと授業づくり」というテーマで、オンライン上でグループに分かれて協議を行った。続いて、1年経験者研修であるが、令和2年度の対象者は21名であった。研修の内容は、指導主事が訪問しての研究授業と授業力向上のための選択研修、そして各学校においての各自の課題解決研修である。1月29日金曜日には、令和2年度鎌倉市1年経験者研修研究協議会を、こちらでもオンラインで開催した。事故不祥事防止とインクルーシブ教育に関する研修、一人ひとりの課題解決に向けた取組に関するグループ協議を実施し、1年間の振り返りを1年経験者研修の仲間と共有した。ウの鎌倉市教育指導員については、年間240回の派遣があり、延べ498人

の教員への指導を実施した。11 ページには、教育情報事業について記載した。各種発行物により、先生方への教育情報の提供や、教育センター事業の広報活動に努めてきた。11 ページを参照願いたい。(1)では、県内の研究会連盟との連携事業、(3)には、市庁舎見学等の一覧についてまとめている。多くが中止・書面開催となった。13 ページ(1)の相談指導事業について、アの相談業務における心理検査は平成30年度より開始し、令和2年度は今日までに13名の児童生徒が検査を受け、その結果を学校・保護者にフィードバックし、子どもたちの支援に生かしていただいている。一方で、検査を行った後に相談が途切れてしまうケースもあり、アフターフォローの充実が課題と考えている。いじめ相談ダイヤルは、今日現在で10名の相談があり、そのうち小学生が6件、中学生に関する相談が1件であった。小中学生については、すべて保護者・市民といった大人からの相談であった。匿名でないケースについては学校に支援を働きかけて、いずれも状況が好転している。Webでのいじめ相談については、今年度は3件あった。こちらも、学校名等が判明しているものは学校と共有・協力して対応し、状況が好転している。いじめ相談ダイヤルの件数は増加したが、10件中のうち8件は匿名で、対応できないケースが目立った。14 ページを参照願いたい。(2)アの教育支援教室「ひだまり」の通室状況だが、今日現在の登録者数は中学生が11名、小学生が6名である。最近の傾向として、小学生の通室が増えてきている。中学校3年生の登録者は現在7名おり、在籍校と連携して、全員の進学が決定した。年間を通しての教育センター相談室利用状況については、5月の定例会にて改めて報告する。以上で令和2年度事業報告を終わる。

(質問・意見)

下平委員

先程のご報告の中でも、心理検査を受けた後の相談が無くなっているケースというのがあった。ちょうど今朝も話題になっていたが、名古屋の方でいじめが原因で大きな問題が起こっている。カウンセラーとか相談員にとってすごく繊細な問題なのだが、本人や保護者が公にしないでくれと言われたから、そっちを優先的にすると結構重大なことに繋がってしまったりということが跡を絶たない。やはり専門家が鎌倉市もしっかり見て下さっているが、いじめだけに限らないが、その子の心理的な状態、深刻度とか、そういうものをしっかりと話し合い、学校とも保護者ともしっかりと向き合い、とにかく本当に大事な宝である子どもたちを守るという体制を今後も重視していただきたいし、本人が働きかけて来なければ相談が途切れてしまうという状況は、やっぱり早く何とかしておかないと重大なことに繋がる可能性があると思うので、今後も引き続きその点は大事にしていきたいと思う。

齋藤委員

教育相談関係についてだが、子どもが学校に行きたがらなくなる不登校の傾向が出来てしまった。そういう時にこういう相談センターとか、相談ダイヤルなど色々相談出来るのだが、私はいつも思うのだが、もう一つ前に学校の中でもっと上手に対応出来たらよいなということ非常に強く思っている。実際にあったことだが、保護者が知り合いを通じて、学校関係の非常勤の方に心を打ち明けたところ、その勤務している方が非常によいアドバイスをしてくれた。そうすると保護者にとって安心出来る人、信頼出来る人、心をかけて下さっている人がいるという安心感、子どもにもその気持ちはちゃんと伝わっ

て、子どもはその先生もいるし大丈夫と思って登校している現実があるという事なのである。そのようにしていくと、学校の方も色々な体制を取って配慮している。そこがやはり大事なところだと思う。各学校それぞれに悩み、苦しみながらもちゃんと対応してくれている。クラスで休み時間以外にレクリエーションの時間を作ったところ、早帰りをしようと思っていたその子がやはり遊んでいこうかなとなり、お友達の中に入って一緒にゲームをして帰る。そうすると第一歩、明日も来ようということになるのではないか。そういうように努力しているところもあるので、教育相談も大切にしながら、各学校やはり頑張ってもらいたいと思う。子どもにより対応して欲しいと節に願っている。

岩岡教育長

どのチャンネルから相談が来てもきちんと全員の情報が共有されるというのは本当に大事だと思っており、どこに相談しやすいかは本当に困っているお子さんや保護者によって全然違うので、こちらとしてもなかなか通報者の情報共有して欲しく無いという意図を、どこまで重要視するかというのは本当にこれから考えていかなければならないと思うのだが、可能な限り加害者には情報がいかないようにしても、支援をする側ではしっかり情報を共有できるような体制が必要だと思っており、教育相談にきた相談についても、可能な限り幅広い支援者に情報共有することを心がけているが、まさに今回の名古屋の事案というのはまだ今も様々な状況が把握されている形だと思うのだが、しっかりと研究をしていかないと同じような事を起こしてはならないと思うので、しっかりと取り組んでいきたいと思う。

(報告事項ウは了承された)

エ (仮称) 鎌倉版 ROCKET 事業の実施について

岩岡教育長

次に引き続きセンター関連であるが、報告事項のエ「(仮称) 鎌倉版 ROCKET 事業の実施について」報告をお願いします。

教育部次長

報告事項エ、教育センターで令和3年度から実施予定の(仮称) 鎌倉版 ROCKET について説明する。議案集4ページの「(仮称) 鎌倉版 ROCKET 事業について」を参照願いたい。教育センターでは、不登校児童生徒の支援のために教育相談を行い、教育支援教室「ひだまり」を運営している。全国的にも鎌倉市でも不登校児童生徒は増加しており、学校への行きづらさを感じている児童生徒への支援は喫緊の課題となっている。今回実施予定の(仮称) 鎌倉版 ROCKET では、不登校児童生徒をはじめ、主に通常の学校生活になじめない児童生徒を対象に、児童生徒の興味関心等に応じた課題探求のプログラムを行うことにより、当該児童生徒が自らの特性を生かしつつ、好奇心や情熱を形にする喜びを感じ、可能性を開花させるきっかけを提供することを目的として、数回のワークショップの形式で年間3～4回のプロジェクトを行う予定としている。4月以降プロポーザルによる入札を行い、委託先を決定し、9月からプロジェクトが開始できるように準備していく。以上で(仮称) 鎌倉版 ROCKET についての説明を終わる。

岩岡教育長

ご質問の前に私からももう少し主旨について補足させていただければと思うのだが、ROCKETを皆さんお聞きになったことがあるか分からないが、東京大学の先端研が日本財団から多額の支援、1億円にも上る支援であるが、それを受けて実施したプロジェクトで、ROCKETプログラムは異才発掘を目的としており、必ずしも既存の学校文化では華開かないけれども、特別な才能を持ったお子さんに対して、特別なプログラムを提供するというようなものであったのだが、鎌倉版とつけているのは、そうした特別な才能教育を行うことを目的とするものではないという想いで、子どもたちが色々な学習をする訳であるが、その学習に対して特性がある訳である。字を読むのが得意な子もいれば、耳から聞くのが得意の子もいれば、もっと体を動かさないと理解が出来ない子もいたりとか、自分の表現の仕方も字を書くのが得意な子もいれば、話すのが得意な子もいれば、身体表現が得意な子もいれば、絵を描くのが得意な子もいるわけである。そうした子どもが実際に学校の中で行きづらさを感じてしまった時に、今はなんとか一つは学校にまた通えるように支援をするということも重要なことだが、学校で提供しているものを少しでも、例えばオンラインで授業したり、ひだまりで少しその授業をしたり、ドリルをしたりとか、そういったことをしている訳であるが、その子が学校で上手く馴染めなかったり、適応出来なかった、学びが適合しなかったことの原因にしっかり着目して、その特性を子どもたち自身が把握して、こういうことだから自分自身はうまく学校に馴染めなかったのかということや、こういう学びだったらもっと自分は楽しんでアウトプットできるのだという実感をしっかり根拠に基づいて提供していくということが、その子の真の自立に繋がるのではないかという考え方である。それをなかなか学校で一人ひとり子どものアセスメントをして、その子について特別なプログラムを組んでということをやっていくのが難しいので、一旦学校の外で知見を有する者と一緒にそうしたものを開発してみようということではじめたいと思っている。ここでも少し書いているが、子どもたちの状況というのをまずアセスメントをする。認知特性とか、学習特性のアセスメントをして、このアセスメントの結果に基づいてプログラムを作って提供して、その様子はメンターが記録をして、フィードバックをするという一連の流れで、子どもたちが自分にはこういう特性があるのだ、だからこういう学習法を取ろう、周りの支援者もこの子はこういう特性があるからこういう支援が一番効くのだということを理解して支援できるようにするといったような世界を作っていきたいと思っている。ROCKETという名前はあくまで（仮称）であって、東大の先端研に提供してもらった訳ではなく、今後入札をしていくことになるので、早くROCKETとは違う名前を提示しないといけないと認識をしている。

（質問・意見）

下平委員

今教育長の補足説明を受けて少し安堵したところなのだが、そのイコールROCKETではないということだが、そもそも人間は皆違うのであって、それで大きく分ければ聴覚派人間、視覚派人間、食運動感覚派人間というように三種に大別できるので、私たちであつてもどこが主になって動いているかというのはそれぞれ違う。そもそも人間という存在は生まれながらに個体で生きていける生物ではない。個体で生き抜くことを宿命としている生き物は、自分の身を守るための鎧を着ていたり、毒を持っている訳

で、人間というのはある意味個体ではもの凄く弱い存在だと思う。それぞれの才能・持ち味はあるが、それがただ磨かれるだけでは力強く生き抜いていけない、本来ある自分の才能を花開かせることは出来ない、そして最終的には社会貢献ということに繋がらないというのでは困ると思う。今就労支援の活動をしているのだが、素晴らしい能力を持っていても、周りとは繋がる力というものが無いと、そこから上手く行かなかったという話があったり、あまりにも優れすぎているがゆえに受け入れてもらえなかったりとか、結局転職を繰り返してしまったりということになると折角能力をどんなに小さいころに磨いても、繋がらないのは非常に悲しいと思うので、今教育長がおっしゃったように鎌倉ならではのそういった個性も伸ばしつつも、しっかり連携出来る、助け合える、分かりあえるというようなそういうことも大事にしてそういう新しいものを少し考えていきたいし、是非皆でこれからも力を合わせて、よきものを創造していければ素晴らしいと思っている。

山田委員

これをやること自体には賛成である。その上で質問なのだが、こちらはチラシを配布して申し込みはウェブからで20名ということであるが、そもそも不登校だったり、学校に来られていない方が対象でもあるようなので、チラシという方法が実際に該当者に届くのかどうか、それは工夫していると思うのだが、今一度必要な方に届くようにしていただきたいということと、3回講座をして、発表会なるものがあるようだが、いずれにしても数回の限られた取組だと思うのだが、少し想像した時にはそれはもしかしたら取り越し苦労かと思うが、こういう人たちはやはりある意味受講したいと思われる層の人たち、生徒たちは自分だけに注目をしてきて、自分に合ったものを届けようという努力や支援をしてきているという環境は、必ずしも学校の環境とは違うと思うので、もしかしたらそこに入りこんで花開くものもあるかもしれないし、意欲が高まったりするかもしれない。ではその後どうするのか、安易に居心地のよいところに入って、その後やはり元に戻りなさいといった時に喪失感というか、あの時はあんなに見てもらえたのに、あんなに僕を理解してくれたのに、やはり僕は自分一人で生きていかなければならないとか、もしかしたらそのような自分の居心地のいいところを見つけてしまったからこそ、その後が辛くなるということはないのかと少し思ったりもしている。これを次にどのように連携していくのかというのは、ここまで用意しておかないと先程いったようなこうしたことが先程いったような喪失感となり、辛さに繋がったりしないだろうかと思う部分がある。それと先程下平委員がおっしゃったような、こういう方は個々の才能を把握するのも重要であるし、一方で足りてない部分、もしかしたらコミュニケーション能力なのか、適応性なのか。そういった補完しなければならないものもあるはずなので、そことの連動をどうするのか、そんなきめ細やかなことが限定した生徒に出来るのだろうかという事もあるので、大きくどこに帰着させるのか、どういったイメージで3回の講座を行っていくのかという事は興味深いし、よく考えていただきたいと思う。

岩岡教育長

いただいたご質問に対しての解答だが、チラシについては単純に学校に提示するだけではなくて、学校に来られてない子どもについても届くように家庭にお届けするし、ひだまりとか支援が繋がっている子どもであれば、ひだまりの場でもしっかりとお配りするということで、確実に目に入っているような形を取っていききたいと思う。あとは出口であるが、単純に子どもたちがたくさんのリソースを受

けて、楽しい活動をして「ああ楽しかった」ということだけでは、その先に繋がらないし、自立に繋がっていかないと思う。なのでその子どもたちが学びがあったのは何故なのかをというところをしっかりと学習者自身と、支援者が理解をするということが大事だと思う。この子はこういう特性があるから、自分自身はこういう特性があるからここは楽しかったのだ、支援者はこの子はここはこういう特性があるからこれがはまったのだということをしかりと理解するということが必要だと思っており、その肝となるのがアセスメントだと思う。例えば事例を上げると、文字を読むのが苦手な子どもが学校でずっと教科書を読めないから怒られる訳で、ちゃんと授業を聞いてないのではないかといったように。その子の学習特性なのだが、学校に行くと少し読めない、問題を読んでいないということで怒られてしまって、学校から足が遠のいてしまったという子どもがいた時に、その特性をアセスメントとして、自分は文字熟語よりも耳からのインプットが得意なのだということが分かって、それを前提とした様な色々なワークショップの組み立てを行っていった時に子どもたち自身が楽しかったという経験が出来て、それを自分のポートフォリオとして受け取る訳である。今度学校に戻った時に、自分自身は教科書を読めないと思った時に、自分の耳で聞くのは得意だから先生の話を生懸命聞いてみよう、周りの子どもたちの話を聞いてみようというように学習法に変化があるし、あとは支援する教職員の場からしても、あの子は文字情報は苦手だったから教科書を読めていなかった時に叱るという方策ではなくて、もう少し別の支援のやり方が取れていく。そうするとその子にとって学校がより居やすい場所になったり、学びやすい環境に変わっていくということになるのかと思っており、よってたかっていいワークショップを提供するという事に留まらず、何故その子がワクワクするのかというところまで遡って、しっかりと掘り下げていくようなものにしたいということで今仕様を詰めているところであり、ただその3回の場所で完結するというよりは、その先の居場所でちゃんと繋がっていくというものにしたいと思っている。

朝比奈委員

感想というか、私が教育委員を仰せつかった最初の頃に出会って親しくなった当時小学校の男の子は今高校生くらいだと思うが、東大のROCKETで凄く溝があったというか、そういう前例を見ても子どもたちが学校には馴染まないが、でも混ざりたいという意欲、興味がというのがちゃんとあって、いささかとんがりすぎてみんなとは馴染まないだけのことであって、本人はそういう意欲は強く持っている。そこを教員の方々が今までの仕組みではその子だけ取り上げて特別なことはなかなか出来なかったが、そういう環境を提供して、伸ばしてあげられる事は素晴らしいことだし、今後のその子たちが将来どこかで就労する機会を得た時に、受け入れる企業が特殊などがった才能をうまく生かせるところが、昔だと難しかったかも知れないけれど、今は様々なテクノロジーが進んできつとそこがマッチングすることが可能だということを期待している。このコロナ禍で色々なことが閉塞したり、停滞したりしているかのように見えるが、しかしそれをバネにして様々なことがICTをはじめ、皆さんの考え方が変わったことによって、よい方向にということも沢山あると思うのだが。この鎌倉版ROCKETというのは、鎌倉らしく動かしていただければと思う。

齋藤委員

私も一人ひとりの子どもにあった教育、あった形での指導ということを考えてるととても大事な事業で

あるのではないかと受け止めることが出来ている。子どもたちにあらゆる方面で、また様々な手法で自分を取り戻したり、自分を見つめたり、そして今こんなことだったら自分はこんなに楽しく出来るのだということ、自信を持たせることも出来るかということも考えて、その子にあった形、そしてまた学校への繋がりという、先生方との繋がりということも非常に大事にしていけるものなので、大切にやっていっていただきたいと思う。

岩岡教育長

最後に今、中央教育審議会での新しい時代、新しい学習指導要領に基づいて、今新しい時代の教育とはなんだということをもう一度議論し直す場があって、令和の日本型教育についての再検討という形で答申が出て、中間報告が出ているが、そこで「個別最適化した学び」という言葉が使われる訳なのだが、これは学校が提供する学びとして個別最適化した学び、個別最適化したというのはなかなか分かり難いのだが、これを二つに分解している。一つは指導の個別化、出来ている子、出来ていない子に対して、それぞれにあった指導を出来る形をそれぞれ作っていくというのはイメージが湧きやすいと思うのだが、もう一つが学びの個性化と言われて、子どもの認知の特性、学習の特性、色々なことを踏まえて子どもたちの学び方にあった学びを適切に選択できるようにしていくということである。その学びの個性化と言っても学校で勉強が出来る子、出来ない子の尺度というのが、そんなに多様な訳ではないので、なかなか子ども自身が自分にあった学習攻略をぱっと選ぶのは難しいのである。なのでここにちゃんときっかけを与えてあげないと絵に描いた餅になってしまうので、学びの個性化が本当にきちんと根拠を持って出来るような形を作って行きたいと思うし、それが今回の鎌倉版 ROCKET がきっかけというか、知見を蓄える形になっていけば非常によいと思っている。また委員の皆さんからもご指導いただきながら作っていきたいと思っているのでよろしく願います。

(報告事項エは了承された)

オ 行事予定

岩岡教育長

次に報告事項オ「行事予定について」記載の行事予定について特に伝えたい行事があれば願います。

文化財部次長兼文化財施設課長

行事予定、文化財部からは3点お伝えしたいことがある。議案集5ページの8番9番を参照願いたい。8番の企画展「まじないの世界～出土品にみる呪術～」においては、現在コロナ禍が続いているが、昔の中世鎌倉時代においても災難や病から逃れたいということで、鎌倉のまじないの世界観を展示している。特に中世鎌倉の出土品のほか伽草子の出土品の展示を行っており、中世の人々がまじないに託した願いを感じていただければと思っており、コロナ禍にふさわしい企画展だと思っている。

もう一つの企画展は「鎌倉大仏」である。こちらは今の企画展のあと4月24日からの開催となる。鎌倉の大仏に関する企画を展示していきたいと思っている。鎌倉の大仏は鎌倉の名所の一つとして有名

であるが、実は学術的にはなかなか文献がなく、分からない部分が多いということである。1240年位に建てられたということは分かっており、当時は大仏殿があったということも分かっているのだが、そういったものも大仏殿の様子等が分からなかったため、近年現地調査等を行っているが、やはり分からない部分もある。当時の面影を再現するため、VRを湘南工科大学と共同研究で作成した。こちらは史跡の4組のVRに関しての第二弾となるので、博物館としてはデジタルコンテンツの充実がより図られると思っており、非常に面白い企画ではないかと思ひ紹介させていただく。

3点目としては2月26日、こちらは鎌倉の博物館としてYouTubeチャンネルを開設させていただいた。タイトルは「鎌倉ミュージアムチャンネル」ということで「ミュージアム」というのは、ミュージアムから来ている。内容としてはパペットを使って、鎌倉の博物館の案内をさせていただくようにしている。歴史文化交流館と国宝館合わせての共同チャンネルとなっており、現在のところは施設の紹介が始まっているが、今後プロジェクトをどんどん増やしていく中で、展示の企画とかこういうコロナの状況であるのでリモートでの解説とかそういったものを企画しているので機会があったらご覧いただければと思う。

(行事予定報告は承認された)

2 議案第31号 鎌倉市教育委員会事務分掌規則及び鎌倉市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について

岩岡教育長

それでは日程の2議案第31号に入る。「鎌倉市教育委員会事務分掌規則及び鎌倉市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について」を議題とする。では議案の説明をお願いする。

教育部次長兼教育総務課担当課長

日程2議案第31号「鎌倉市教育委員会事務文書規則及び鎌倉市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について」提案の理由を説明する。議案集6ページを参照願いたい。令和3年4月1日付で組織の合理化を図るとともに、教育活動に資することを目的として教育委員会事務等の組織の見直しを行うため、鎌倉市教育委員会事務分掌規則及び鎌倉市教育委員会公印規則の一部を改正しようとするものである。

14ページの事務分掌規則の新旧対照表を参照願いたい。まず第3条、部等の設置について、「教育部」を「教育文化財部」に改め、教育総務課に「教育企画担当」を加え、「文化財部」を削り、「文化財施設課」を「生涯学習課」に改める。続いて14ページから16ページにかけて、教育総務課の事務分掌について、教育企画担当の新設及び社会教育関連事務の生涯学習課への移管に伴い、表のとおり改める。18ページに移り、文化財課の事務分掌について。部を一つに統合することに伴い、文化財課が担っている部の総務及び経理担当としての事務分掌を削る。また、文化財施設課の課名を生涯学習課に改める。19ページに移り、現在教育総務課に配置している社会教育主事を、生涯学習センターに配置することとするため、第5条、事務局における職務名等及び第6条、事務局における職務から削る。第7条教育センターについて、現状に合わせて担当から「教育情報担当」を削るとともに、事務分掌から8号

及び10号を削り、号数を整理する。23ページから27ページにかけて、機構順に合わせ鎌倉歴史文化交流館を第12条に、鎌倉国宝館を第13条に、生涯学習センターを第14条とする。併せて生涯学習センターの事務分掌について、教育総務課から移管される内容を含めて整理し、社会教育主事の職及び職務内容を含めて規定する。その他部名の変更等、文言の整理を行う。

続いて28ページの公印規則の新旧対照表を参照願いたい。第2条、公印の種類のうち、(3)鎌倉市教育長印の番号入りは部の総務担当として、文化財課が使用している公印のため、部の統合に伴い、削除する。また、(4)鎌倉市教育委員会何々部長の部長印について、市長部局においては、特定の部を除き各部長印は無いこと、教育委員会においても使用頻度が少ないことから削除する。29ページに移り、第4条準用規定中、「教育部長」を「教育文化財部長」に改める。30ページ、第3条にかかる別表について。形式5の「鎌倉市教育長印（番号入）」及び形式6「鎌倉市教育委員会何々部長印」を削除するとともに、鎌倉歴史文化交流館、鎌倉国宝館、31ページに移り、鎌倉市吉屋信子記念館に係る公印の管守者を、「生涯学習課の課長等」に改める。本規則の施行期日は令和3年4月1日とする。以上で説明を終わる。

(質問・意見)

下平委員

具体的に4月からになるか。

岩岡教育長

そのようになる。

下平委員

そうするともう人事というか、そういうのもある程度固まっているということか。

岩岡教育長

具体的な話は、一週間前程度であるから、誰がどう配置されるかというのはもう少し後のことになる。

下平委員

生涯学習課長、結構忙しくなりそうだなと何か今見る限り思ったのであるが。あと印鑑とかは今後どうなっていくそうなのか。

教育部次長兼教育総務課担当課長

今、印鑑の廃止、色々市長部局と教育部で調整をしている状況で、なるべく押印については省略しようという形で、いま現在調整をして動いているところで、学校関係に関しても、先日校長会で説明をさせていただいて、なるべく押印は廃止するという形で進めている状況である。

(採決の結果、議案第 31 号は原案どおり可決された)

3 議案第 32 号 鎌倉市教育委員会施設管理規則の一部を改正する規則の制定について

岩岡教育長

それでは次に日程 3 議案第 32 号に入る。「鎌倉市教育委員会施設管理規則の一部を改正する規則の制定について」を議題とする。議案の説明をお願いします。

教育部次長兼教育総務課担当課長

日程 3 議案第 32 号「鎌倉市教育委員会施設管理規則の一部を改定する規則の制定について」提案の理由を説明する。議案集 34 ページを参照願いたい。令和 3 年 4 月 1 日付けの教育委員会事務局等の組織の見直しなどに伴い鎌倉市教育委員会施設管理規則の一部を改正しようとするものである。

37 ページの新旧対照表を参照願いたい。まず第 4 条について。本規則は鎌倉市庁舎管理規則を準用しているが、庁舎管理規則の改正に伴い、準用規定である第 4 条の文言及び表を整理するものである。

続いて 38 ページに入り、第 3 条別表。組織の見直しに伴い、鎌倉歴史文化交流館、鎌倉国宝館、生涯学習センター及び鎌倉市吉屋信子記念館を生涯学習課の課長等が所管することになるため、管理責任者を改めるものである。本規則の施行期日は令和 3 年 4 月 1 日とする。以上で説明を終わる。

(採決の結果、議案第 32 号は原案どおり可決された)

4 議案第 33 号 鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程の一部を改正する規則の制定について

岩岡教育長

それでは日程 4 議案第 33 号に入る。「鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程の一部を改正する規則の制定について」を議題とする。それでは議案の説明をお願いします。

教育部次長

日程 4 議案第 33 号「鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程の一部改正する規程の制定について」提案の理由を説明する。議案集 39 ページから 41 ページを参照願いたい。鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程については、学校における教職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するため、平成 30 年 11 月 28 日付鎌倉市教育委員会庁達第 2 号で定めたものである。令和 3 年 4 月 1 日付で実施する組織の見直しに伴い、第 11 条第 2 項第 1 号中「教育部長」を「教育文化財部長」に改め、同項第 2 号中「教育部次長」を「教職員の健康管理を所管する教育文化財部次長」に改めるものである。この規程は令和 3 年 4 月 1 日から施行することとする。以上で説明を終わる。

(採決の結果、議案第 33 号は原案どおり可決された)

5 議案第 34 号 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について

岩岡教育長

それでは日程5議案第34号に入る。「学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について」を議題とする。議案の説明をお願いします。

教育部次長兼教育総務課担当課長

議案第34号「学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について」提案の理由を説明する。議案集は42ページから47ページを参照願いたい。学校医、学校歯科医及び学校薬剤師については、学校保健安全法第23条の規定に基づき委嘱しているが、現在、委嘱している者の任期が令和3年3月31日をもって満了するので、新たに令和3年4月1日から令和7年3月31日までの4年間の任期で、別添名簿のとおり、公益社団法人鎌倉市医師会、一般社団法人鎌倉市歯科医師会及び鎌倉市薬剤師会からの推薦を受けた者、学校医83人、学校歯科医30人、学校薬剤師25人を委嘱しようとするものである。

(質問・意見)

特になし。

(採決の結果、議案第34号は原案どおり可決された)

6 議案第35号 令和3年度(2021年度)鎌倉市学校教育指導の重点について

岩岡教育長

それでは日程6議案第35号に入る。「令和3年度(2021年度)鎌倉市学校教育指導の重点について」を議題とする。では議案の説明をお願いします。

教育部次長

議案35号「令和3年度(2021年度)学校教育指導の重点について」説明する。別紙資料「令和3年度(2021年度)学校教育指導の重点(案)」を参照願いたい。2月定例会教育委員会において「令和3年度(2021年度)学校教育指導の重点(案)」についてご協議いただいたのち、いただいたご意見をもとに、主に学校教育指導の重点を改めて検討し、原案からいくつか変更したので説明する。

中面を参照願いたい。まず学校教育指導の重点は、原案では「人間性を高め、豊かな学びを実現する教育過程の編成」であったが、ご協議いただいた内容をもとに「新しい時代を生きる児童・生徒の豊かな学びにつながる教育活動の推進」とした。これは新学習指導要領の小・中学校での全面実施を受け、これからの時代の変化に対応しつつも、教育の本質は見失わないよう、主体的・対話的で深い学びをもとにした児童・生徒の豊かな学びに繋がる教育活動を推進していくことを打ち出したものである。副題は重点を受け、これからの鎌倉の小・中学校での子どもたちの学ぶ姿を先生方がイメージ出来るよう「全ての子どもたちがワクワクしながら学べる学校教育にむけて」に修正した。

また、教育指導の4つの視点も、重点を推進すべく、授業改善、支援教育、人権、安心・安全をキーワードに①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、②個に応じた支援教育の充実、③

人権意識の向上と豊かな心の醸成、④安心・安全な学校教育環境の充実とまとめた。さらに具体的な内容については、文末を「～します」という形で先生方により親しみやすい表現とした。

本教育委員会にてご承認いただいた後、学校へ送付するとともに、重点項目に関する具体的な内容については、「令和3年度（2021年度）教育指導課事業等について」の中で各学校へ周知していくのでご了承願う。中面の関連事業及び最後のページについては、令和3年度予算の議会議決後に決定する。ご検討をよろしく願います。

（質問・意見）

下平委員

前回の教育委員会でも結構私も色々意見させていただいて、それを見た上で非常に先生方が身近にイメージにしやすい方法に整備していただけたのではないだろうかと感じている。

齋藤委員

素敵タイトルをつけていただいたと思う。新しい時代を生きるということ、それから新学習指導要領も含めてとてもよいという感想を持った。それからその下なのだが、例えば主体的・対話的でというところで最後の語尾を「目指します」とか「推進します」といった親しみやすい文にさせていただいたということで、私自信は正直なところを申し上げると体言止めのほうがよいと思っている。幅広くそれぞれが考える広い形で取り組んで行く、みんなとやって行くわけなのだが、そういうように出来るからすっきりと教育活動になると、教育活動で色々なことをやっていくんだとそれぞれが感じると思っている。けど先程の説明にあったように親しみやすいということを知って、私もそういうように捉えればよいのかと感じた。

山田委員

これは一つの意見なので全然加えてくれなくても結構なのだが、よく「新しい」というのが教育と文言として使われて、例えば教科書も新しい教科書とか、新しい国語、算数とか新しい算数ってなんなのかと思ったりするのだが、「今を」ということなのかなと思う。「新しい」と付けること自体が古くなっているような部分が私は気になっていて、一瞬よいなと思ったのだが、よくよく考えてみると「何が新しいのかな」というところが出てきてしまうかもしれないので、一つのアイデアとしては、占星術的には土の時代から風の時代という大きな変化があって、これはそういう世界の人だけではなくて、それに伴ってそういうときはコロナのような、大変なことが起こったということでおそらく地球の大きな流れの中にある動きなのではないかと私は考えているのだが。そういった大きなもの見えるものから見えなもので価値が変わっている、今みたいな時代を少し表現する一つの例として「風の時代を生きる児童」とかもいいと思うし、お時間の都合があるし、今ここで変えた方がよいという訳ではないが、少し言葉が持つインパクトとか、それが何を表現するのか、どういうものを訴求したいのかというところ、ある意味ブランディング的な観点から考えていただくとよいと思っている。

岩岡教育長

確かに「新しい教育活動」というと、その教育活動は多分数年経ったら陳腐化してしまったりするので、あまりすっと入らないのだが、ここで「新しい」をつけているのは新しい時代を生きるという事で、ややもすると子どもたちに対する教育を行う時に、自分がこれまでに生きて来た時代の価値観で教育活動を行ってしまいがちなのだが、子どもたちが大人になるのは未来なわけで、20年先の未来であるから、新しい時代がどういうものがやってくるのかというところから逆算して考えて、どのような教育を行っていかなければならないのかという視点を持つことは非常に重要だと思っており、この新しい時代を子どもたちは生きるのだという前提があれば、常に教師が自分の知識をアップデートしたり、時代認識を改めたりとするようなところの必要性が浮かび上がってくるのかということでこういう文言を作っているのだが、「新しい教育」を何か浮足立ってやるというのではなく、子どもたちが新しい時代を生きる認識に立っていかなければならないという趣旨をしっかりと伝えられるように、我々も教職員に対してメッセージを発していきたいと思う。

(採決の結果、議案第35号は原案どおり可決された)

8 協議事項 鎌倉市生涯学習プランの改訂について

岩岡教育長

次に日程8 協議事項「生涯学習プランの改訂について」を協議する。協議事項の説明をお願いします。

教育部次長兼教育総務課担当課長

協議事項「鎌倉市生涯学習プランの改訂について」説明する。平成6年に策定した「鎌倉市生涯学習プラン」については令和2年度で10年間の計画期間が終了することから、令和3年度から令和7年度までの5年間の計画期間として現行プランを改訂し、別紙のとおり「鎌倉市生涯学習プラン(案)」としてとりまとめた。

概要については議案集50ページ、資料1「鎌倉市生涯学習プランの概要」を参照願いたい。令和2年12月に開催した本委員会12月定例会において、プランの素案をお示するとともに、プラン改訂に係る意見公募手続きの実施についてご報告させていただいた。その後、令和3年1月4日から2月2日まで意見公募手続きにより、意見募集を行い、6名の方から14項目のご意見が寄せられた。併せて庁内への意見照会も実施し、3部から6項目の意見をいただいた。いただいた意見とそれに対する市の考え方は議案集51ページ資料2「鎌倉市生涯学習プランに対する市民意見公募に係る意見と市の考え方一覧」のとおりである。パブリックコメントでの主な意見は、プラン全体に関する意見として、「SDGsを念頭においたプランである事は望ましい」、「具体的な施策が示されていないことから、全体的に抽象的・概念的な印象が強く、今後どのような方向で改善していくのか補足が必要」などのご意見をいただいた。これらについては、プランにおいて詳細に記載するのは難しいため、PDCAサイクルにより、施策の進行管理を行うとともに、各施策の方針に位置付ける「施策の方向」の具体的な事業については、市民にも分かりやすいようにアクションプランとしてとりまとめ、事業の推進管理に努めていくとして市の考え方を示している。その他、「社会課題を自分自身の課題として意識して取り組んで行くことが必要という記述に同感である」といった肯定的なご意見もいただいた。庁内への意見照会では、「オンラ

イン・リモートの導入を前提として、「デジタルデバイト対策の検討」、「リカレント教育」についての追記提案をいただき、追加記載した。そのほかご指摘いただいた部分についても、意見を踏まえ、素案から修正した。本日のご協議の中でいただいたご意見と、昨日開催された庁内の連絡調整会議でも修正意見が出されており、それも含め、さらに修正を加え、3月の臨時教育委員会で提案する。なお、プランに関連する具体的な事業等については、現在庁内照会を行っており、今後実施事業等を取りまとめ、アクションプランとして位置付けを行い進行管理していくこととしている。

岩岡教育長

前回の教育委員会で議論した際にも、もう少し具体性を持たないか、これをどのようにPDCAを回して進行管理していくのかということところが主なご意見としてあったかと思うのだが、今回のプランの策定自体はまだアクションプランの記載がないが、現時点での状況を踏まえて質問・意見をお願いします。

(質問・意見)

下平委員

ちょうど長寿命化計画のときにも申し上げたのだが、やはり社会的な環境が随分変わっているので、例えばこの12ページの学習環境のところ「換気を整えた広い空間」とか、そういうようなものも必要になってくるだろうし、あとは27ページに「駅施設の活用」というようなご要望も出ていて、先ほど少し出た長寿命化計画と同じなのだが、やはり複合的に、鎌倉市全体をよい意味で、学校も含め、生涯学習出来る場も含め、考えていくという視点が今後とても重要になっていくだろうと思う。それとSDGsに基づいた第4期の基本計画を立てた時点ではこの時代が読めてなかったわけであるが、おそらくこの先リモートワークがもっと定着して行って、働き世代が都内にいなくてもよくなってくる。そうすると本当に働く30代~50代世代の方々が地元にいるようになる。そうするとアフターファイブの時間はもっと生涯学習に活用できるようにもなり得るわけで、今までのように割と自宅に留まりがちな高齢者向けの生涯学習という考え方が、私は変わってくるだろうというのは想像できる。そういう人たちの活用、またはそういう人たちの学びの場ということも、今後視点の中にはとても重要になってくると思う。28ページのアンケートに、学習したい人は82.3%にもいるのに、学習したことがない人が41.3%もいるというのは、やはり私は前々から大きな問題だと思っていて、周知徹底、こんなに面白いことをいっぱいやっているのに十分に行き渡ってはいないのが問題だと思うので、もっと世界に色々な意味で発信していかないといけないと思う。

それとこれは質問なのだが、32ページに分かりやすい表があるのだが、社会教育主事とか社会教育士、こういった方々は市の職員でこういう資格を持った方が中心になって、今どういう構成になっているのか。やはりこれからの時代、ネットワークを作る人と、それから色々な相談に応じる人、コーディネーター役がとても重要になってくると思う。それからその辺りの組織と配置がどのようになっているのかということ伺いたいと思う。いずれにしても大局的な視野に立って、小・中学校も含めて生涯的な教育施設も含めてプランを考えていく必要がとても重要だと感じているところである。

教育部次長兼教育総務課担当課長

ご質問いただいた社会教育主事であるが、社会教育主事の資格を持っている市の職員もいるのだが、今まで配置してきたのは、学校の教員の方で、社会教育主事の勉強をしている、そういう資格を持っている方を教育委員会に配置しており、その方が社会教育部分について授業したりとか、計画を策定したりそういうことで携わっている状況である。

下平委員

今後そういう世代ももっと幅広くなって、色々な方が生涯学習に関わってくる。そうすると本当に色々な思いや、色々な意見を持った人たちをコーディネートする人、例えば会社の組織だったらコンプライアンスとかルールで縛れると思うのだが、意外とこの世界は縛りがないために、もの凄くコーディネートしていくのが、まとめていくのが大変だと思うので、よいチームを作っていけたら、よい学びが作っていただけたら、今後こういう立場の人がとても重要になってくると思うので、その辺の実績配置とか、それからどういう人たちを手厚くあてるかとそういうことも含めて検討したほうがいいかと感じた。よろしく願います。

教育部次長兼教育総務課担当課長

今回の鎌倉市生涯学習プランについては、生涯学習センターの所管という形で、今回の機構改革においても社会教育主事は生涯学習センターの方に配置をするという形になるので、実施を徹底していきたいと考えている。

岩岡教育長

少し補足をすると、社会教育主事と社会教育士と両方書いてありこれはなんだというところだと思うのだが、昔社会教育法とか、社会教育主事という言葉しかなかったのだが、これは職の名前になる。指導主事と同じで、社会教育主事として任命された人を社会教育主事と呼んでいた訳なのだが、先程下平委員がおっしゃったとおり、教育委員会のただの職としてだけではなくて、色々な場で色々な地域の方をコーディネートしたり、繋げていくことで学びの場を作ったりとかという立場の人がもっと必要ではないかという観点から、社会教育主事の養成課程を受けた方を、資格として社会教育士と名乗る事が出来るように社会教育法を改正した経緯があり、社会教育主事に任命されていない方でも社会教育士の方というのが日本中に潜在的にいるという状況になってきたので、そういった方々を今後社会教育の場面もそうだが、学校も今後コミュニティスクールという形で、地域と学校を連携した教育の形を作っていくと考えているし、鎌倉にどれくらい社会教育士の資格を持っている方がいるのか、どういう役割を担っていただけるのかというのは、制度が変わったばかりなのだが、よく調べて研究をしていきたいと思っているところである。

今下平委員からいただいたご意見や市役所内で出ているさまざまな意見を踏まえて、引き続き進めていくということで課題議題として挙げさせていただく。

(協議事項「鎌倉市生涯学習プランの改訂について」は了承された)

岩岡教育長

それでは日程1報告事項イの及び日程7議案第36号は非公開となるので、傍聴の皆さんと関係職員以外の方はご退場準備をお願いします。

非公開

1 イ 県費負担教職員人事の内申に係る専決処分の報告について

7 議案第36号 審査請求にかかる裁決について

岩岡教育長

それでは本日の議題は以上だが、令和3年3月23日をもって任期満了に伴い委員を退任される山田委員より最後に一言いただきたいと思っている。私からご紹介と言っても皆さんよくご存じだと思うが、山田委員は平成21年から委員をしていただいて、令和3年3月23日まで3期12年に渡り教育委員としてご活躍していただいたということで、全国的に見ても非常に長いと思う。平成24年から平成27年まで2年5カ月に渡って委員長も務めていただき、また市の全体の総合計画の審議会の委員をしていただき、新しい教育委員会制度になってから総合教育会議を通じて、鎌倉市の教育大綱を作るという大きな仕事もあったが、それも第1期第2期と委員を務めていただいた。これまで文化やアートなど、そういった方面に非常に知見があって、また我々教育現場がややもすると当たり前思考停止に陥ってしまいそうな時に、常にグローバルな視点から常識を疑ったりする発言をいただいて、我々としてもいつも自ら行っていることを見直す機会をたくさんいただいていると思っている。これからも長くご指導・助言をいただきたいと思うが、ご退任ということで、引き続きのご活躍を祈念したいと思っている。山田委員から一言いただきたい。

山田委員

ただ今過分な言葉をいただきありがたく思う。12年というと、小学校から高校卒業くらいの長い期間で、本当にこのような大役をいただいたことに感謝する。ちょうど就任した時、私は下の子が幼稚園生、上の子も小学校低学年という母親としても未熟で大変忙しく、お弁当3つを作りながらなんとか幼稚園に送って委員会に間に合うような生活で、未熟ではあったが、母親の視点とか、先ほどご紹介いただいたように海外の教育を受けたり、自分の子どもたちを見ている中での違う視点とか、それから伝統文化とかアートを好んでいる趣味人としての視点も含めて、色々と至らない点もあったと思うが意見を述べさせていただいた。非常に魅力的な委員の皆さんと、岩岡教育長という凄くリーダーシップのある方をお迎えして、教育委員会がまた次のステージに行くという、大変楽しい時期に少しだけ最後ご一緒させていただいて、展開していくところをもう少し見てみたいという気持ちはあるが、これからは一市民として、それを楽しみにしたいと思う。また、鎌倉市民であるので、是非心にとめていただいて、なにか出来ることがあったら引き続きお声かけくださればと思う。本当にありがたく思う。

岩岡教育長

これをもって令和3年3月定例会を閉会する。